

はじめに

「古典学の再構築」のすべての研究が開始されて1年が経過した。本年度は、2度の公開シンポジウムを始め、20回を超える総括班会議、調整班会議、各種委員会などの会議を重ね、古典および古典学を、その歴史、翻訳と受容、政治的、社会的、個人的機能など種々の局面において検討することにつとめた。

古典が果たした役割は文明により異なるが、古来その創造と伝承には特別の熱意と労力が払われてきた。個人や民族・国家の行為規範を与える宗教書、哲学書として、あるいは人々の心性や感性を涵養する文学として、古典は文明を担う人々が意識的または無意識的にその中で生きる世界観を提供してきた。科学技術の進展に伴い急速に変容しつつある現代世界において、諸文明の古典の多様な人生観、世界観の認識の上に立ち、現代にふさわしい新たな価値観を構築することは、きわめて重要なことであろうと思われる。

この特定領域は、異分野の古典学の連携研究と、情報処理法の確立・普及を研究方法の2本柱として、古典学および古典像の刷新を図るものである。本号は、この目的と方法にそって実施した研究の、本年における成果を特集した。1年を経過したところでようやく諸領域の現況が明瞭になり始めたと思う。

平成12年度は、2年間の成果を提出する年である。年度末に具体的な成果を少しでも多く掲げることができればと願っている。この領域内外の方々の、一層のご尽力をひとえにお願い申し上げます。

平成12年3月30日

領域代表 中谷 英明